

平成 25 年ヒラメ稚魚分布密度調査結果 (太平洋) について

当研究所では太平洋における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を平成11年から行っており、平成25年は7月24日、8月23日、9月10日に桁網（水工研Ⅱ型）を用いて三沢市沖8点で行いました（図1）。ヒラメの分布密度は桁網効率を0.28とすると0～175尾/1,000m<sup>2</sup>の範囲にありました（表1）。採集したヒラメの全長組成は7月24日に水深5mで20mm台、8月23日に水深5、10mで60～80mm台、9月10日に水深5mで110mm台、水深10mで110～120mm台が主体でした（図2）。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、平成25年は122と高い水準になりました（図3）。これまでの調査結果を見ると、太平洋南部では着底指数が高かった年の翌年に1歳魚の漁獲尾数が多くなる傾向があることから、1年後に漁獲対象となる本年生まれの資源は高水準であろうと考えられます。

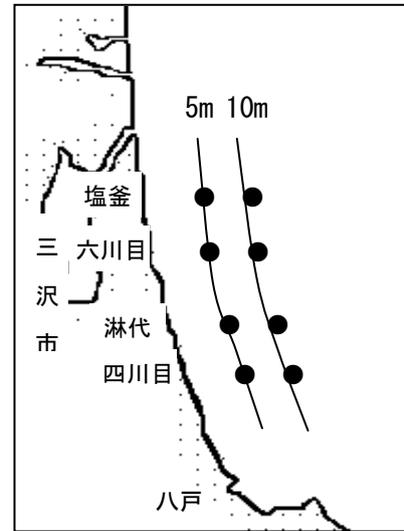


図1 調査地点

表1 ヒラメ稚魚分布密度

太平洋										(尾/1,000m <sup>2</sup> )	
水深		5m				7-10m				5m	7-10m
調査月日/調査点	四川目	淋代	六川目	塩釜	四川目	淋代	六川目	塩釜	平均	平均	
2013/7/24	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
2013/8/23	175	108	114	82	78	110	92	25	122	81	
2013/9/10	90	24	48	60	64	51	35	22	57	42	

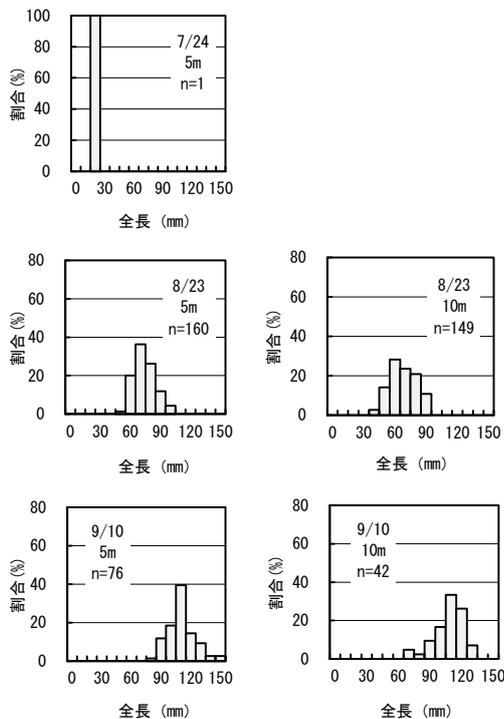


図2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

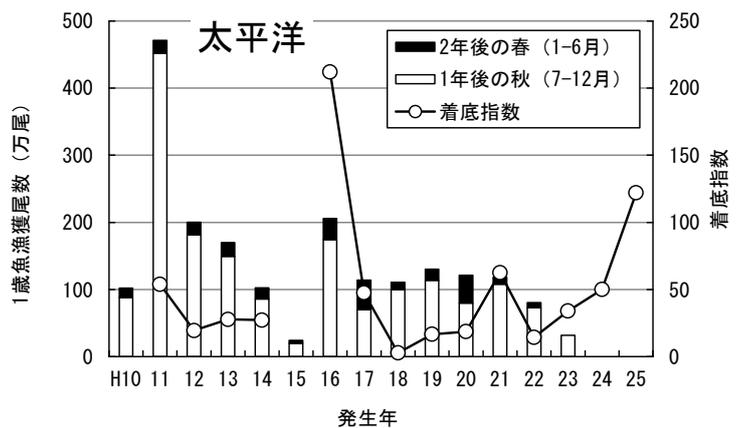


図3 太平洋のヒラメ着底指数と1歳魚漁獲尾数の推移